

# ラジオ語学講座テキスト『初等国語講座』と

## 国民学校教科書『ヨミカタ』の内容比較

### ラジオ어학강좌 교과서 “초등국어강좌”과

### 국민학교교과서 “요미카타”의 내용비교

上田崇仁

#### 要約

1943 年 당시에 방송된 라디오 초등국어강좌의 교과서과 그 당시의 초등 교육 기관인 국민학교의 교과서의 내용을 비교하면서 어떤 차이가 있는나를 검토했다.

그 결과, 일반에 대한 라디오강좌에는 문법적인 체계적 구성이 보이지만 국민학교의 교과서에는 자연스러운 아동의 發聲부터 시작했다는 차이가 있다. 하지만 시라바스의 차이는 교재의 세세한 내용을 비교할 때에는 큰 문제가 된다. 앞으로 비교연구할 위한 基準을 설정할 必要性이 밝혀졌다.

#### 1.はじめに

上田 (2007) で殖民地朝鮮において放送されたラジオ語学講座「初等国語講座」のテキストの内容が 1943 年 2 月のものと同年 12 月のもので大きく異なっていることを示した。内容という言葉は、非常に曖昧な用語になるので、ここで整理しておきたい。

一口に内容といっても、教育する語彙、教育する文型、教育する文化、などが挙げられる。日本語教育の中で言う、シラバスリストにまとめられる全ての項目を内容と呼ぶことになるので、本稿では、教育する語彙を「教育語彙」、教育する文型を「教育文型」、教育する文化を「教育文化」と呼ぶこととし、全てを包括する用語として「教育内容」という言葉を用いたい。

その上で、再度、上田 (2007) について言及すると、1943 年 2 月のテキストと 12 月のテキストとは、教育語彙及び教育文化が著しく異なっていたと言い換えることができる。教育文型については、2 月のテキストの抜粋しか手元になく、新出語彙及び各課のトピック以外は比較できないので断言できない状態である。

本稿では、同時点、すなわち、1944 年以降の「国語」教育で使用された 2 種類のテキストである 1943 年 12 月に発行された『初等国語教本』と 1942 年に発行した『ヨミカタ』の教育文内容を比較することで、その相違点と類似点とを導き、学習者の違いがどのように教材に反映していたのかを明らかにしたいと考えている。なお、「教育文化」については、筆者の恣意的な抽出になってしまうため、本稿では取り扱わないこととしたい。

本稿で扱う研究の位置づけは、従来、筆者が進めてきたラジオ「国語講座」が地域的なニーズを反映したシラバスの異なりを持って編纂、制作されていたことを踏まえ、同じ地域で学習者が異なった場合にどのような異なりが生じていたかを明らかにする作業である。

まず、両テキストの教育文型を抜き出し、その比較検討を行う。教育文型の抽出は、シラバスの分析に非常に有用で、上田 (2006) 及び上田 (2007) では学習者のニーズ、教育者側のニーズを明確にする

のに役立った。その手法が、同じ地域の異なった学習者を対象として作成された教科書の比較分析に、有効な手段かどうかについても検討したい。

続いて、両テキストの教育語彙を抜き出し、その比較検討を行う。教育語彙の比較検討が有効な手段であるかどうかについても、教育文型同様、検討したいと考えている。

## 2. 『初等国語講座』の教育文型

『初等国語講座』は、筆者の調査では1943年12月に発行された物が1部のみ現存している。長野県駒ヶ根市の市立図書館竹村文庫所蔵である。

『初等国語講座』の教育内容を一覧にすると以下の通りである。

課	教育文型		
1	NはNです	15	謙譲語 Vてから、～ Vつもりです
2	Nが見えます／有ります	16	Vてください
3	NをVます 疑問詞「何」及びそれに伴う疑問文と答え	17	な形容詞 Vために～
4	Nがいます	18	Vておきます
5	疑問詞「どなた」「誰」及びそれに伴う疑問文と答え	19	引用の「 」 Vていらっしゃいます
6	連帯修飾句 ～といひます Nは(場所)の(位置)にあります	20	Vてあります Vように～
7	動詞の過去 NにVます	21	疑問詞「いくら」及びそれに伴う疑問文と答え 単位
8	複合助詞(取り立て詞)	22	Vに行きます ～ので Vことにします (時間)にVます 受け身
9	Nになります NをVましょう	23	無し
10	い形容詞の名詞修飾 Nはできます NがVされます	24	Vと、～
11	(場所)にNがあります	25	敬語(特殊な形)
12	Nで(具格) V(辞書形)＋に(も)	26	無し
13	Vて、～ Nにします そうすれば Vやすい Vたり Vとき	27	命令形
14	Vています 尊敬(られる)	28	～は～に～を送ります
		29	V予定です
		30	Vかもしれません

	V 出しました
31	条件形
32	無し
33	普通体 Vなければなりません

34	Vなくてはなりません Vのです
35	無し

上田（2006）（2007）では、教育文型と教育文化の抽出によって、文法シラバスとトピックシラバスの混合であるという結論に至っている。

### 3. 『ヨミカタ』の教育文型

国民学校令の公布に伴い、朝鮮の小学校は国民学校となった。そして、使用される教科書も新しく編纂された。ここでは、1943年時点で使用されていた『ヨミカタ』（1, 2年生用）のうち、一年生前半用のテキストを取り上げ、内容を比較したい。下の表の教育語彙欄の斜体字は、挿絵のみのページでその絵を利用して導入し得たと思われる語彙及び挿絵から本文以外で導入した可能性のある語彙を示している。なお、『ヨミカタ』1ネン上では、課が示されていないため、便宜的に数字を振っている。以下ではこの数字を「課」として扱う。また1～9まで教育文型が示されていないが、これは挿絵のみで構成されている部分であるためである。また、それ以降の教育文型の空欄は、新しい文型が提出されていないことを示している。

課	教育文型
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	・イ形容詞 ・名詞
11	・助詞「ノ」
12	・擬音語
13	・命令形
14	・イ形容詞の連体修飾 ・て形
15	
16	
17	・た形

18	・(～を) V *「を」未提出 ・意向形
19	
20	・普通体動詞文 ・～が V ・引用の「と」 ・～まで
21	・丁寧体 ・Vます ・Vましょう ・数字（1, 2） ・な形容詞＋で
22	・呼称 ・返事 ・お～なさい ・*「を」が提出される
23	・～ナ（感動）
24	
25	
26	・ ～へ 移動動詞

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ～に (目的) 移動動詞</li> <li>・ 付帯状況のて形</li> </ul>
27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取立ての「は」</li> <li>・ 並列の「と」</li> <li>・ 到着点の「に」</li> <li>・ 行動場所の「で」</li> <li>・ 丁寧体の過去</li> <li>・ 進行の「ている」</li> </ul>
28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 名詞文 (NはNです)</li> <li>・ 疑問文 (Nですか)</li> <li>・ も</li> <li>・ 敬語</li> <li>・ 謙譲語</li> </ul>
29	
30	
31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ と型副詞</li> <li>・ な形容詞の名詞修飾</li> <li>・ 直接引用</li> <li>・ 継起の「と」</li> </ul>
32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 存在文 (～ある)</li> <li>・ 擬態語</li> <li>・ ～てくる</li> </ul>
33	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疑問詞「なに」</li> <li>・ 見える</li> <li>・ 比較「～より」</li> <li>・ 比況「～のように」</li> <li>・ 説明「の」</li> <li>・ ～てみる</li> <li>・ 変化「～くなる」</li> </ul>
34	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様態「そう」</li> <li>・ 連体詞「オオキナ」</li> <li>・ 「～だす」</li> <li>・ 感動「こと」</li> </ul>
35	
36	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 形式名詞の「の」</li> <li>・ あんな</li> <li>・ ～たい</li> <li>・ 音がする</li> <li>・ ～てしまう</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ そうして</li> <li>・ すると</li> </ul>
37	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対比の「は」</li> <li>・ 「～から」</li> <li>・ 意向形+とする</li> <li>・ 理由「～から」</li> <li>・ ～てください</li> <li>・ ～てやります</li> <li>・ 疑問詞「どこ」</li> <li>・ 授受表現「やる」「もらう」</li> <li>・ 名詞+になる</li> <li>・ ～たり、たり</li> <li>・ 逆接「～が」</li> <li>・ お～ください</li> </ul>

『ヨミカタ』は、韻文からの導入で始まっている。提出される文型は、易から難へという文法シラバスのな配列にはなっていない。それよりも、後で述べるように、子どもの自然な発話に基づいた文型の提出が心がけられているように思われる。

#### 4. 『初等国語講座』と『ヨミカタ』の教育文型比較

2及び3で、教育文型の一覧を示した。3で述べたように、文法シラバスのな構造を持っていないテキストと文法シラバスに基づいて作られたテキストを比較する際に、文法的な分析を行うのは、妥当とは言えない。しかし、一方で初修者というキーワードでくくれば、その初修者にどのような文型や語彙を提示しているのか、どのような日本語を提示しているのかを比較する意義はあると思われる。

以下にどのような文型が提出されているかを整理してみた。取り上げた項目は、筆者の恣意的な選択による。項目の是非についての検討は、稿を改めたいと思う。『ヨミカタ』の欄の（ ）中の数字は、挿絵のみで構成されている部分を除いた場合の課の番号である。

文型など	『初等国語講座』	『ヨミカタ』
名詞	1課	10課(1)
い形容詞	1課	10課(1)
な形容詞	17課	31課(22)
動詞	2課	13課(4)
オノマトペ		12課(3)
疑問詞(語彙を問わない)	3課	33課(24)
比較を表現する文		33課(24)
て形を使った文	13課	27課(18)
ない形を使った文	33課	
た形を使った文	13課	17課(8)
辞書形を使った文	13課	
普通体を使った文	33課	20課(11)
命令形・禁止形を使った文	27課	13課(4)
意向形を使った文		18課(9)
条件形を使った文	31課	
受身形を使った文	10課	
使役形を使った文		
敬語(尊敬・謙譲)	14課	

表を見て分かるように、一方にしか提示されていない項目が複数存在する。

この表を基に、提示されていない項目、提示された項目がどう選択されたのかを検討していこう。

前提となるのは、『初等国語講座』が対象としているのは、一般の人々であって、年齢も、学歴も、一様ではなかったのに対し、『ヨミカタ』が対象としているのは、国民学校に入学してきた新入生、言い換えれば、基本的には6才程度の児童を対象にしていたということである。

そこから、学習項目の取捨選択に差が生じたと考えるのが妥当であろう。

つまり、ラジオ講座のように、一般を対象とした教材の場合、文法シラバスに基づく体系的な教育が可能であ

るのに対し、初等教育機関のように初修の子どもを対象とした教材の場合では文法シラバスに基づく教育が行われていないということである。

では、子どもを対象とした教材編纂にどのような配慮がなされていたのであろうか。

内地の資料になるが、『ヨミカタ』の編纂について記してある『国民科国語教師用』の「編集方針」には以下のように記されている。

特に巻一は第一部乃至第三部から成り、専ら言語の發生過程を考慮してこれを具象化した形にできてゐる。

即ち第一部は兒童の主體的な叫び聲、及びそれからやや發展した韻律的言語を教材とするもので、その排列は發音指導の展開に即しめたものが多く、随つてこれをできるだけ大きく叫ばせることによって發音の基礎練習をなさしめ、且訛音の矯正につとめしむべきものである。第二部に入つてまづ騷の言語を與へ、これを手がかりとして教養ある言語への關心を高め、教養ある話しことばを基礎として兒童の生活を表現するとともに、傍ら第一部の素朴な韻律的叫聲を調へて次第に童謡・童詩に展開し、第三部に入つて童話的敘述に移行する。…(中略)…在來以上に音聲言語を重視する立場から、巻一卷頭の二教材には文字を用ゐず、専ら兒童の話合のための教材とした。(『国語教育史資料』) 1981 再録: 487)

ここから分かるように、『ヨミカタ』は音声言語を意識した形で構成されており、「兒童の主體的な叫び聲」、「やや發展した韻律的言語」から始まっているという。

こういった教材編纂の姿勢が、両者の学習項目の異なりに反映していると考えられる。

内地の教材の編集方針ではあるが、この時期、つまり、国定第五期と朝鮮第五期の国語用教科書については、教材タイトルの共通割合がほぼ 66% に上る極めて似た教材になっているため、編集方針もほぼ共通していると考えられる(上田 2000)。

## 5. 『初等国語講座』の教育語彙

次に、『初等国語教本』の教育語彙を抜き出すと以下の通りである。参考のため、各課のタイトルも記載してある。

課	課のタイトル	教育語彙
1	ニツポン	日本、日本人、萬歳、國旗、國旗掲揚、日ノ丸ノ旗、國家、君ガ代、紀元節、天長節、明治節、新年、此、今日
2	テンノウヘイカ	天皇陛下、皇后陛下、勅語、宮城、宮城遙拜、繪、見エル、有ル
3	カミサマ	神様、神社、神社參拜、才詣、鳥居、御手洗、拜ム、柏手、神棚、大麻、才供、祭、爲ル、打ツ、何、彼
4	コクミン	國民、皇國臣民、男、女、大人、子供、農夫、漁師、商人、産業戰士、貴方、居ル
5	カゾク	家族、家、父、母、祖父、祖母、兄、姉、弟、妹、叔父(伯父)、叔母(伯母)、從兄弟(從姉妹)、子、孫、祖先、方、誰
6	ムラ	村、面、面長、面事務所、町、學校、駐在所、郵便局、金融組合、銀行、會社、住ム、言フ、名、眞中、隣
7	アイコクハン	愛國班、班長、班員、常會、最敬禮、默禱、申合事項、皇國臣民ノ誓詞、大詔奉戴日、何萬、今朝、集ル、移ル
8	ダイトウアセンサウ	大東亞戰爭、軍隊、陸軍、海軍、兵器、戰車、大砲、飛行機、軍艦、潛水艦、勝ツ、敵
9	グンジン	朝鮮、徵兵制、施ク、來年、徵兵檢査、少年飛行兵、海軍特別志願兵、立派ナ、軍人、千人針、送ル、慰問袋、兵隊サン、有難ウ、(兵役、入營、入隊)

10	バウクウ	訓練警戒警報、防空、用意、出來ル、白イ旗、赤イ旗、水、水槽、砂、筵、火叩、梯子、鳶口、訓練空襲警報、發令、敵機來襲、爆彈投下、焼夷彈投下、年寄り、防空壕、避難、解除
11	バウテフ	壁、耳、障子、目、間諜、何處、祕密、話、役所、工場、書物、下書、無闇、捨テル、紙屑、探る、物、始末、防諜、銃後、戦、油斷、大敵
12	カラダ	身體、強い、鍛ヘル、御奉公、必要、ラジオ體操、頭、廻ス、運動、手、伸バス、足、舉ゲル、背中、眞直グ、胸、張ル、歩ク、(顔、鼻、口、頸、腹、背中、腕、腰、膝、指、骨、血)
13	ケンカウ	衛生、丈夫、飲物、喰物、着物、住居、清潔、毎日、規則、正シイ、暮ス、健康、病氣、罹ル、赤痢、チフス、恐ロシイ、傳染病、豫防注射、風邪、惡イ、咳、熱、特ニ、(藥、脉、養生、早起キ、深呼吸、體温計、胃病)
14	スマイ	岡、部屋、日、當ル、屋根、藁葺、窓、山、川、庭、柿、木、梨、鳳仙花、花、咲ク、パカチ、土塀、裏、井戸、隣、門、戸、開ケル、入ル、(塀、垣根、瓦葺、柱、障子、便所)
15	カグ	机、字、書ク、椅子、腰掛ケル、本、讀ム、箆笥、鏡臺、髪、直ス、宅、參ル、膳、片付ケル、放送、積、受信機、目盛り、波長、家具、扱フ
16	キモノ	揃ヘル、國民服、上衣、下袴、襯衣、戦闘帽、脚絆、朝鮮服、和服、持ツ、襦袢、下着、羽織、帶、浴衣、通學服、靴、下駄、履ク
17	サイホウ	裁縫、仕事、縫ふ、針、彈丸、物差、反物、寸法、計る、鋏、裁つ、絲、通す、單物、裏、裕、綿入れ、綿、皺、伸す、鋏
18	センタク	今日、天氣、洗濯、洗濯物、浸ス、石鹼、洗フ、苛性ソーダ水、煮ル、石、載セル、洗濯棒、叩ク、灰汁、使フ、垢、落ル、濯グ、絞ル、何時
19	シヨクジ	御飯、呼ブ、朝飯、頂ク、出征、蔭膳、味噌汁、副食物、漬ケ物、茶、御馳走様、御辨當、米、麥、粟、豆、味噌、醤油、砂糖、肉、魚、野菜、果物、粥、饅頭、代用食、晝飯、夕飯、茶碗、椀、皿、箸、匙
20	ダイドコロ	臺所、釜、炊ク、七輪、鍋、火鉢、藥罐、湯、沸ス、竈、薪、燃ヤス、炭、使ウ、温突、無煙炭、道具、キチント、整頓、暗闇、間違ヘル、薪、節約、焚口、工夫
21	カヒモノ	御免下サイ、白菜、イクラ、匁、錢、大根、貫、入用、ダケ、結構、合セル、取ル、釣錢、左様ナラ、毎度、有難ウ
22	ミオクリ	一緒、見送、汽車、私達、乗ル、乗合自動車、邑、驛、切符、枚、一列、竝ブ、靜カニ、時、出ル、時間、驛前、停マル、降ル、待合室、軍服、姿、オ目出度ウ、祝、萬歳、送ル、動ク、邑内、夕方
23	アイサツ	オ早ウ、天氣、一日、元氣、働ク、今日ハ、今晚ハ、急シイ、良ク、イラッシャル、上ル、皆サン、揃フ、始メル、終ル、オ寝ミ
24	ミチヲタヅネル	一寸、伺フ、番地、邊、何方、申ス、角、右、曲ル、眞直、藥屋、左
25	ハウモン	待ツ、大層、長イ、閒、御無沙汰、後、變リ、元氣、思ハズ、時間、御邪魔、伺フ、
26	テガミ	手紙、拜啓、櫻、咲ク、スッカリ、春、宅、開拓村、安心、今度、卒業、是非、暫、見習、遣ル、都合、如何、知ラス、殿
27	イウビン	宛ル、出ス、便箋、書ク、封筒、入レル、切手、貼ル、郵便箱、返事、急グ、

		支度、郵便局、電報、打ツ、頼信紙、朝、貴地
28	カハセ	金、世話、費用、爲替、組ム、料金、願フ、書留
29	デンワ	電話、先日、構フ、昨日、内地、此方、明日、満州、發ツ、豫定、午後、半、承知
30	テンキ	空、晴レル、雲、風、ソヨソヨ、吹ク、氣持、仕事、面白イ、運ブ、黒イ、雲、冷イ、雨、降ル、夕立、稲妻、光ル、雷、夜、月、星、輝ク
31	ノウゲフ	農業、種粃、苗代、播ク、作ル、田植え、涸レル、注意、田、草、抜ク、蟲、稲、米、實ル、穂、金色、垂レル、刈ル、稲扱、藁、刈、詰メル、今年、照ル、キット、豊作、勝ち抜ク、供出
32	コウジャウ	工場、寄宿舍、有様、話、起床喇叭、一齊、起キル、廣場、朝禮、朝風、翻ル、仰グ、工場歌、歌フ、濟ム、工場長、訓話、受ケル、機械、轟々、廻轉、音、火花、次、兵器、額、背中、瀧、流レル、汗、歸ル
33	ゾウサン	バリバリ、鑿岩機、岩、抉ル、カンテラ、薄暗イ、岩穴、美イ、鑛石、碎ケル、前線、鑛山、休、鐵、銅、掘ル、全部、持場、増産、職場、戰場
34	チョチク	貯蓄、我、身、屋、今、品物、負ケル、同ジ、一發、彈丸、債券、貯蓄、米、英、討チ滅ス、費用、億、銃後、務
35	ナフゼイ	榮エル、努、義務、兵役、納税、教育、守ル、必要、立派ナ、國民學校、建テル、鐵道、扱フ、納メル、税金、賄フ、期日、遅レル、納メル

教育語彙については、上の表を見て分かるように、時局を意識したテーマの選択に留意されているという特徴が挙げられ、上田（2006）、上田（2007）で明らかにしたように、提出する文型は易から難へという文法シラバスを維持しながら、語彙を入れ替えることによって、時局にあった教材を作っていたことが伺える。

## 6. 『ヨミカタ』の教育語彙

『ヨミカタ』に見られる語彙をまとめたのが以下の表である。網掛け部分の斜字語彙は、イラストのみで構成されている頁に掲載されている物事を指し示しながら提示し得たと考えられる語彙である。また、課の欄にはそれぞれの場面を説明する言葉を入れた。

課	教育語彙
朝礼の場面	朝礼、日の丸、国旗、先生、生徒、男の子、女の子
教室内、授業中の場面	黒板、入口、出口、机、椅子、飛行機、自動車、電車、汽車、座ります、教えます、習います
授業中、教師と児童の対話	教科書、ノート（帳面）、鉛筆、筆箱、立ちます
男子児童と女子児童の通学	帽子、鞆、ハンカチ（手ぬぐい）、ランドセル
野原	雀、鷄、鳩、ひよこ、鳥、犬、猫、牛、豚、馬、ウサギ、山、野原
校庭の子ども達	桜、奉安殿、天皇陛下、御真影、教育勅語、礼、脱帽
砂遊び	砂遊び、ショベル、バケツ、川、遊びます、掘ります、作ります、
教室内、授業の場面	時計、花びん、オルガン、教卓、黒板消し、皇国臣民の誓詞、窓、カーテン、
校庭、体育または休み時間	校庭、鉄棒、かけっこ（徒競走）、鬼ごっこ、縄跳び、砲丸投げ、重量挙げ、相撲
登下校風景	校門、道、手をつなぎます、迎えます



朝日を見る子ども達	アカイ、アサヒ
日の丸掲揚	ヒノマル、ノ、ハタ、バンザイ
牛の散歩、ツバメの子ども	コウシ、トコトコ、ナカヨシ、コヨシ、ツバメ、コドモ
兵隊の行進、徒競走	ヘイタイサン、ススム、ハシル、シロ、カツ、アカ
遠足	タカイ、ヤマ、ヒクイ、オテテ、ツナグ、ナガイ、レツ
バケツリレー、花の水やり	エッサ、アイコクハン、オハナ、ミヅクミ
アヒルの散歩	ガアガア、アヒル、ヨチヨチ
紙風船遊び	フウフウ、フクレル、カミフウセン
紙の輪飾り作り	カミ、キル、ワ、ヲ、ツクル、ツナグ、はさみ、のり
家庭での挨拶（母親はチマチ ヨゴリ）	オハヤウゴザイマス、イタダキマス、オトウサン、イッテマキリマス、 オカアサン、たばこ、あさごはん
野山と牛	ソラ、ガ、ハレル、ウシ、ナク、モウ、ト、パイチュク、ヒバリ、アガル、 テン、マデ
朝の体操	カン、カネ、ナル、ハヤク、アツマル、アサ、タイサウ、ゲンキ、デ、 イチ、ニ、ウデ、ノバス、
授業風景	タケムライサム、サン、ハイ、ホンダヒロシ、ナカネユミコ、モリヤマ キヌコ、ミナサン、ホン、オモチナサイ、オヨミナサイ
授業風景	ミンナ、ベンキャウ、ウレシイ、ナ、
体育での行進	コクミンカクカウ、イチネンセイ、一、二、三、
学校を出るとき	センセイ、サヤウナラ、イッショニ、オカヘリナサイ
おつかい	ヲヂサン、トコロ、へ、オツカヒ、ニ、イク、ヨロコブ、ツク、電柱
神社の描写	ケサ、オキル、オネエサン、オミヤ、オマキリスル、ゴシンゼン、ウツ、 オガム、ヤネ、ウエ、アソブ、キマス、狛犬
糸電話遊び	モシモシ、デスカ、サウデス、ワタクシ、イマ、イラッシャル、アナタ、 モ、マセンカ、アリガタウ、スグ、マキリマス、いとでんわ
遊びに行く	ゴメンクダサイ、ドウゾ、オアガリクダサイ、
カタカナ語彙のしりとり	ペンキ、キシヤ、シャボンダマ、マナイタ、タンポポ、ポプラ、ラッパ、 パピプペポ
アリの描写	アリ、ナラブ、セッセト、ホル、アツイ、ヒナカ、コミチ、トホル、マ ジメナ、カホ、スル、ヤ、コンニチハ、デアフ、ト、チョット、オジギ スル、ソレカラ、ダマル
池遊びの描写	アメ、ヤム、スズシイ、カゼ、フク、クル、木、ハ、ソヨソヨ、ウゴク、 イケ、フネ、ウカベル、ホ、アル、ウケル、ハシル、水、ズンズン
トビとカメの会話	トビ、トブ、カメ、キク、ナニ、ミエル、ヒロイ、ウミ、コノ、ヨリ、 ノ、ドウシテ、ヤウニ、ミタイ、ナル、
母親と子どもの虹を見てい る描写	ユフダチ、ヤム、アタリ、アカルイ、サス、セミ、サウニ、ナキダス、 ムカフ、オオキナ、ニジ、デル、ヨブ、マア、コト
トンボの描写	トンボ、スイスイスイ
牛を見た蛙の寓話	ジマン、カヘル、ジブン、アンナ、～タイ、オモフ、一シャウケンメイ、 イキ、スウ、オナカ、ダンドン、フクレル、タイソウ、ヨロコブ、モツ

	ト、スヒコム、スルト、ボン、オトガスル、ヤブレル、シマフ
桃太郎	ムカシ、アルトコロ、オヂイサン、オバアサン、タキギ、トル、川、センタク、川カミ、カラ、ナガレル、モモ、ソノ、ヒロウ、カヘル、ミセル、コレ、メヅラシイ、イフ、キル、ニツ、ワレル、中、男ノ子、ウマレル、モモタラウ、名ヲツケル、ツヨイ、オニガシマ、オニタイヂ、カラ、キビダンゴヲ、テクダサイ、タノム、テヤル、イサマシイ、デカケル、スコシ、ドコ、オイデニナル、オコシニ、モノ、日本一、一ツ、オトモ、ヤル、ケライ、サル、モラウ、キジ、ツレル、ワタル、門、シメル、マモル、テキ、ヤウス、スルスル、ノボル、戸、アケル、セメコム、トビマハル、ツツク、ヒッカク、〜タリ、カミツク、刀、ヌク、タイシヤウ、チカラ、イッパイ、タタカフ、トウトウ、マケル、カウサンスル、クルシメル、イタス、オユルシクダサイ、ユルス、イロイロ、タカラモノ、サンダス、モツ、タツ、ツム、クルマ、ヒク、アトオシ、ツナ、エンヤラヤ、カケゴエ、

挿絵の頁で取り上げられたと思われる語彙は別として、実際に教科書に採用されている語彙は、先に挙げたように、児童の生活における自然な発話、つまり「児童の主體的な叫び声」、「やや発展した韻律的言語」から始まっている。また、子どもの学校生活に即した話題が取り上げられており、学校生活の全てが日本語で表現できるような工夫が見られる。いわば、閉じた世界を対象とした教育語彙の選択が行われていると言えよう。

## 7. 『初等国語教本』と『ヨミカタ』の教育語彙比較

両者の語彙は、まさしく、対象の違いが反映していると言える。

『初等国語講座』では、時代背景を如実に反映した教育語彙を選択しており、トピック一つとっても日常生活を装いながら、そこで示されている教育文化は軍国主義的な物になっている。一方の『ヨミカタ』は、子ども達の日常を示し、生活に即した教育語彙を選択していることが分かる。一般的な生活と、学校を中心とした生活とでは、自ずと必要とされる語彙が異なってくるが、この両者を比較することで、より明確に示すことができる。

しかしながら、両者に共通する事項も少なくない。

共に、日本という国家に関する記述、教材はかなりの量含まれている。『ヨミカタ』の挿絵のみの頁にも、国旗、奉安殿、皇国臣民の誓いなどが見られ、学校生活をはじめた子ども達が自分の生活に新たに登場する事物に対する素朴な疑問にすかさず語彙が与えられるようにしてあるのである。

## 8. おわりに

『初等国語講座』と『ヨミカタ』の教育内容について、教育文型と教育語彙を取り上げ、比較検討した。

その結果、以下のことが明らかになった。

第一に、教育文型に共通点はほとんど見られないという点である。これは、編纂のためのシラバスが『ヨミカタ』では文法シラバスではないためであり、それはは、学習者が異なっていたためである。

第二に、トピックシラバス的な教材は両者に共通して含まれていたという点である。これは、初修レベルという学習者の日本語力を踏まえても、なお、日本語を通じてどのような話題に関心を持たせたかったかの反映であろうと考えられる。

第三に、教育語彙には共通点が多々見られたという点である。これは、時代に即した語彙を選択した結果であり、この時期に共通する特徴であるといえよう。

以上のことから、同じ地域で、同じ時期に作成された教科書は、学習者によって異なるシラバスで、異なる教

材を作成していたことが明らかになった。

その一方で、時代の影響を受け、トピックの選択や、語彙の選択には共通することも多いことが明らかとなった。

今後は、ラジオ「国語講座」の始まったと思われる1936年からのテキストを鋭意探し出し、その時期の初等教育機関のテキストとの比較を行うこと、また、初等教育機関のテキストを朝鮮旧学部期から朝鮮第5期まで同様に教育文型、教育語彙、教育文化の抽出という作業で分析していきたいと考えている。

#### 参考文献

上田崇仁（2000）『植民地朝鮮における言語政策と「国語」普及に関する研究』広島大学大学院学位論文

上田崇仁（2006）「放送教本『初等国語講座』について」『徳島大学留学生センター紀要』創刊号

上田崇仁（2007 予定）「放送教本『初等国語講座』に見る「国語」教育」『植民地時代の朝鮮と台湾』第一書房